

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木 3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up , TOHOKU !

無料

第32号

毎月発行

創刊2014年(平成26年)1月16日 金曜日

2014年(平成27年)1月16日 金曜日



岩手・大槌



福島・南相馬

4年目を迎える被災地

正念場はこれから！ 大胆な発想で打開！ 受身ではいけない！

ありきたりの言葉が 震災を風化させる

今年東北震災発生から四年目にあたる。そしてこの大災害の風化が心配されている。忘れられては困ると大勢の人が口々に言う。風化とは何だろう。風

化とは特別なことではなく、普通のことであると思う。では特別のことではないとはどういうことだろうか。ありきたりの言葉で表現することから風化は開始されると筆者は考える。ありきたりの言葉とは、いわば他人の言葉である。こう考えると、風化をさせないためには自分だけの言葉で語り続けることである。そうすればほかの出来事の中に埋もれて、次第に忘れてしまうことはない。

小学生たちはせりふを自分で考えたのである。誰かに言わせるのではなく、自分自身で書いた。子どもも状況を分かっているのだ。ひとりひとり自分で考えたせりふを聞いていたら、不覚にも涙が流れた。ずしんとこちらの心に突き刺さってくる。余計なしん酌がないからストレートに響く。百聞は一見に如かず。再放送があるようだ。ぜひご覧ください。

その被災も千差万別であった。だから被災者や関係者が全員同じ言葉では語ることは出来ない。まったく同じ経験を共有していないのだから当然である。実は正直に告白するが、筆者も被災者との語らいのなかでどうしたらいいのか分らない。迷ったことがある。被災者に向き合ったとき、直接の被災者ではない自分が何を言えばいいのかあれこれ迷うばかりで、余計な気づかいばかりしていた時期があった。

また、復興においては旧に復することは基本的にむずかしいことをはつきり認識して欲しいということがある。以前からこの新聞で言ってきたように、旧に復するのはなく、再興するのであり、以前の状況とはかけ離れた状況を生み出す勇気を持つて欲しいということである。そして、自分のこととして被災地の復興あるいは再興活動をしようではないか。あるいは語り継いでいくことではないか。

受身は止めよう

ふたつだけ被災地、被災者の方々に注文がある。それはいつまでも受身であり続けることは止めようということである。

誰かを当てにする、他人が何もしてくれないと嘆く、いつまでも受け手の側にいて自分から積極的に行動しない、こうしたことはおさらばしよう。

大胆な発想が
事態打開の方法

これだけの災害を克服して復興あるいは再興させようというのであれば、かなり大胆な発想が求められる。それを編み出し、実行していく勇気を持つて欲しい。支援者はいる。その支援者との共同作業で望めば、必ずや実現するはずである。今年はその一年にしたいと心から思う。



宮城・名取



岩手・大槌



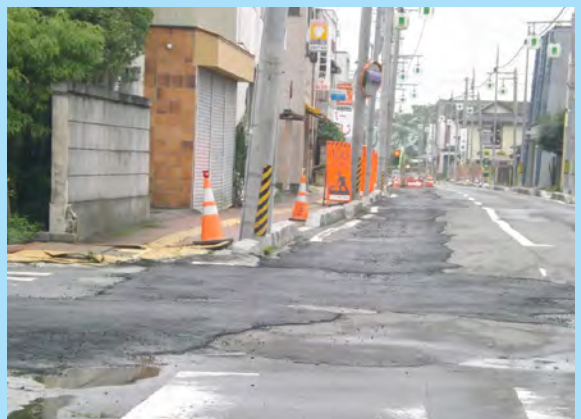
福島・南相馬



宮城・東松島



岩手・大槌



福島・南相馬

第9回三陸酒海鮮会・日本橋 (12/18)

忘年会シーズンにもかかわらず
多数ご参加いただきました
ありがとうございました



集合写真

第九回目の三陸酒海鮮会・日本橋開催は忘年会シーズン真っ只中の十二月十八日に、日本橋水天宮前にある会場の「ささや」さんで開催されました。
さすがに今回は十数名参加で、店内すし詰めとはいきませんが、この会の趣旨をご理解いただいている「常連さん」に多数ご参加いただきました。



地酒を説明するオーナー

なかには仙台と一緒に仕事をされたお仲間が終結して、忘年会も兼ねるといいうグループもありました。このグループの方々と少しお話ししましたが、やはり仙台の知り合いも被災されたというものでした。

このように復興支援に対する関心が高い多くの参加者を集めていただき、主催側としてもうれしい限りです。
オーナーからは、毎回、当日供される三陸の地酒の説明があります。特に今回供された福島ルーツで今山形で仕込んだ地酒「磐城寿(いわきことぶき)」は人気が高く、いち早く飲ん平たちの胃袋に吸い込まれて行きました。



地酒ラインアップ

水産業再興のための 料理レシピ紹介

第5回目

【紅鮭のいずし】



郷土料理愛好家
松本由美子氏



紅鮭のいずし完成



紅鮭投入



野菜投入



樽底



紅鮭切り身

材料と作り方

—材料—

紅鮭3本、大根3本、人参3本 生姜 400g、キャベツ2個、(全体の重さの2%の塩)
—酢飯の調味料—
米2.5kg、塩 180g、麴3袋(お湯でふやかす)、酒 400cc、酢 300cc・400cc(ふり酢)、
砂糖(ひとつまみ)、鷹の爪(小口に切る)
炊き上がったご飯にふり酢(400cc)以外の全てを混ぜておく

—作り方—

- ① 鮭を三枚におろし、身を適当な大きさに斜め切りにして水に晒し洗う。ざるに上げて水気を切る。(軽く重しを乗せておく)
- ② 野菜は大根とキャベツを短冊に切る。生姜と人参を千切りにして野菜の重量を量り、2%の塩で一晩漬ける。
- ③ ご飯を炊いて、調味料をすべて混ぜあわせて酢飯をつくらせて冷ましておく。
- ④ タルに笹の葉を敷き上記の酢飯をバラバラ敷く。次に漬けておいた野菜(水分を捨てて)を敷きその上に紅鮭を敷いてふり酢をします。(酢を鮭に直接ペタペタつけて良い)また、酢飯を敷き野菜を敷いて紅鮭を乗せて、ふり酢をし交互に漬けてゆきます。(8段ぐらいになります)
- ⑤ 重しは当日はしない。3日後に5kgのせませす。7日後3倍の15kg、更に10日後2倍の30kg、また10日後60kgをのせて最終になります。
- ⑥ 5日後、重しをとり汁を捨てて、水気を切りタルから上げます。キッチンタオルなどでよく水切りをして完成となります。だいたい45日ぐらい寝かせます。



紅鮭の上に酢飯を乗せる

—ポイント—

必ずお酒は日本酒を使います。出来上がりの当日から3日目までは発酵をすすめる為、重いしは乗せません。最初から60kgをのせると発酵はうまくいかなくなります。寒暖の差が麴を発酵させ、熟成を促してゆきます。麴を食べると疲れが取れると昔からいわれ、肌の調子もすべすべ、免疫力も高まり冬におすすめる長期保存の発酵食品です。出来上がるまでワクワクしつつ重いしをのせるのも楽しみながら、麴菌に声をかけたりするのもいいと思います。

東北へのエール from Spain

萬 暁子



筆者プロフィール
萬 暁子氏紹介
東京都出身、スペイン在住歴5年。学生時代に岩手県岩泉町の芸能に触れて以来、東北の芸能の虜である。海外移住後も芸能への思いは変わらず、芸能のスペイン公演が夢である。

ようやく知られつつある、東北の存在

まずスペインと聞いて何を思い浮かべるだろうか。旅行ガイドをめくれば太陽が輝く青い空、白い壁の家並み、闘牛、情熱的なフラメンコの写真が目を惹きつけることだろう。スペインにも日本と同じく地方差や地域差はあるものの、共通

している国民性が見られる。彼らにとつて人生は楽しむ為であり、熱狂的なラテン気質である。しかしその情熱は、休暇をより多く取るための努力に費やされる。いまだに家族や地域の絆が強く、仕事や社会活動よりも、家族や夫婦で共に過ごす時間が重要視される。何においても「ゆったり、ゆつくり」であり、現代日本が忘れてしまったものが数多く残っている国でもある。スペイン人の観光客に対する親切さ、温かさは、東北の人々を思い出させる。近年まで、日本文化といえばアニメやマンガ、ゲームが中心であり、ごく一部の日本ファンが好む風変りな趣味でしかなかった。しかしここ2、3年でネットや留学を通じて、日本の伝統や文化をより深く学ぼうとする若者が爆発的に増えている。

しかし知名度においては奈良や京都、東京などの陰に隠れてしまい、存在自体が殆ど知られていなかった東北。3・11の震災の報道でその存在が知られ始め、その翌年2012年には、慶長遣欧使節団の訪西400周年を迎えることとなった。

日西交流400周年記念の本当の主役は『東北』だった

慶長18年(1613年)、仙台藩主伊達正宗公の命により、支倉常長ら慶長遣欧

つ芸能を他地域で探すのは難しいかもしれない。国内外を惹きつけて止まない東北の芸能

Youtubeでも海外公演の様子を観られるが、これまでに数多くの芸能団体がヨーロッパ公演を実現し、フランス、イギリス、ロシアで大喝采と共に成功を収めている。芸能保存会の方々にも、それぞれ仕事や生活がある事を重々承知の上でお願い申し上げるが、いつの日かスペインでも踊って頂けないだろうか。東北の芸能は美しさ、高い完成性どころから見ても外国人を惹きつける魅力があり、保存されているままの形で十分に観光資源となり得るだろう。

なぜ東北の芸能なのか

筆者は芸能に関しては無知ゆえ感想を述べるのみだが、東北には見た目が華やかなだけではなく、目を閉じてでも耳で楽しめる芸能が無数に伝わっている。生のお囃子からCDでは到底出せない振動が生み出され、身体に伝わる。目を開ければ圧倒的な迫力をもつ踊りが視野を支配する。

本当の意味で、スペイン人に見て欲しいもの

いま『観光資源』という言葉を用いたので念のため申し上げますが、筆者は芸能が客寄せのお祭りダンスだとは考えていない。芸能とは、慶び事や弔い、神への感謝、そして祈りが現在まで守られ伝承されているものである。厳しい歴史の中で、踊り手や観る人の祈りや思いを汲み取りながら踊りの所作やお囃子の旋律衣装などが幾度も改良され洗練されてきた。総合芸術とも言えるだろう。そして東北では(特に岩手県は)それらがプロの踊り手ではない、普通の方々によって

『ものづくり東北』をスペインで!

スペインでも他の海外諸国と同様、ソーニーやトヨタ、東芝など、すでに多くの日本企業製品が普及して久しい。面白いことに、マドリードの地下鉄自動改札機は、何等かのエラーが発生すると「カカリインヨ」のカタカナで表示されることがある。改札機のメーカーはスペイン企業だが、機械の本身はNEC製だからである。このように日本の機械製品が一般の目に触れない部分にまで根深くシェアを伸ばしている一方、近年の日本食ブームにより、健康的な和食材が注目を浴びている。東北発の日本酒、高品質な大豆発酵食品などの独自ブランドは数えきれない。2013年9月、バルセロナ市は『観光やビジネスを通じた復興支援』という独自の交流プログラムを発足。そして同年10月、日本とスペインは『相互輸出入量、相互投資を増やす』という覚書を締結した。これをチャンスに、東北の製品

をスペインで展開して欲しいものだ。これは余談だが、新聞など各マスコミで用途が問われ、使い道の説明が待たれる復興予算。政府が組んだ予算枠25兆円は、スペインのGDPの10%を上回るものである。被災地のインフラ復旧が高スピードで行われた件と同時に、その膨大な金額についても新聞やネットで話題になった。あらゆる意味で、日本経済は注目を浴びている。

「中央である」という事は能動性を持つこと

現在、政治経済の「中央」は東京を初めとする数都市である。しかし東北文化に関しては東北こそが中央である、と考えて頂きたい。観光には少なくとも『外に向けてPRする発信型』と、『観光客を受け入れる受信型』という2つの要素がある。いまま少し足りないのはおそらく『発信』ではないだろうか。例えば県や市町村の観光課で観光パンフレットを他言語で刷り、各国の大学の日本語学科の研究室、日本国大使館の観光情報窓口などに置く、観光名所のWEBサイトを最低でも5ヶ国語で翻訳する、などである。もしその観光パンフレットや案内にお祭りの画像があれば、芸能の存在に目を留める人も現れるに違いない。

地道な活動がもたらしたもの

現在、マドリードで紹介される日本の文化は、西日本、関東のものに偏りがちである。しかしこれは最初から日本観光局や政府が推

市』を利用するのはどうだろうか。国際観光見本市とは、年に一度、世界各国で開かれる観光ビジネスイベント。日本からも「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の一環として、在スペイン日本国大使館や国際観光振興機構が中心となり、日本ブースとして出展する。スペインでも日本ブースが数多く報道されるなど注目が高く、ビジネス関係者一般来場者で賑わう。各国のブースでは商談デスクをはじめ、グルメ試食コーナー、美しい名所旧跡のカタログやパンフレットがすらりと並び、時間ごとに民族舞踊を披露する国も。日本からは、マドリード在住の有志による生け花、書道、着物着付けなどのデモンストレーションが行われる。マドリード国際観光見本市の2013年のレポートによると、「日西交流400周年事業を通じて知ったのか、東北についての質問や資料請求も例年より多かった」とのこと。デモンストレーションで東北の芸能が踊ってくれたら、一気に訪日スペイン人の数が上がるのでは、と勝手に想像している。

岩手県などは既に国際交流の一環として、農業体験学習などの留学生を受け入れているし、筆者も数年前に神楽公演で外国人の学生と見られるグループに出会ったことがある。東北を訪れ、一般に海外で知られている日本像とは全く違った姿に驚いたのではと思うと、もつと驚かせてみたくなる。今までの80人近くの現地人に東北の芸能の動画を紹介したが、観た後に必ず言われるのは、「日本の芸能とは思えない!」であった。

新しい『日本のイメージ』を東北から

岩手県などは既に国際交流の一環として、農業体験学習などの留学生を受け入れているし、筆者も数年前に神楽公演で外国人の学生と見られるグループに出会ったことがある。東北を訪れ、一般に海外で知られている日本像とは全く違った姿に驚いたのではと思うと、もつと驚かせてみたくなる。今までの80人近くの現地人に東北の芸能の動画を紹介したが、観た後に必ず言われるのは、「日本の芸能とは思えない!」であった。



スペイン風景

おわりに

筆者は何の肩書きも無い、マドリードに住むただの一人(いち)日本人である。東北出身ではない他所者である。活動を続けるためには東北の方々の協力、綿密なコミュニケーションが欠かせない。しかし『客観的な視点で現状を捉え、内側と外側を繋ぐこと』、これができるのは筆者のような他所者かもしれない、とも自負している。スペインにこんな日本人がいる事を知って頂けるなら、他所者冥利に尽きるばかりである。何分勉強中の身であり、おそらく既に文中で未熟さを発揮したはずだが、どうかお許し頂きたい。最後になるが、この記事を書くに当たり、さまざまなアドバイスや現地的情報を下さった芸能関係者の方々に心から感謝を申し上げる。

東北地ビール紀行「ホイのホイ」(補遺)の補遺)〜全国各地の地ビールが飲めるステキなお店

「ホイのホイ」

好評のうちに(?) 7月16日発行の第26号を以て8回の連載を終えた「東北地ビール紀行」。しかしその後取り上げていなかった地ビール醸造所が2つあることが判明したため、9月16日発行の第28号のこのコーナーで「東北地ビール紀行補遺」として、その2つの醸造所を含めて、「地元の原料を使った地ビール」について紹介させていただいた。今回は別に何か忘れていたというわけではないのだが、ぜひとも知ってほしい地ビールに関係するお店がいくつか出てきたので、この紙面をお借りして「東北地ビール紀行・ホイのホイ(補遺の補遺)」として紹介させていただきたい。

全国各地の地ビールが飲めるイベント

連載中にも紹介したが、

執筆者紹介

大友浩平 (おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブローグ」
http://blog.livedoor.jp/anagmasi/



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo

ここ東北においても全国各地の地ビールが飲めるイベントがほうぼうで開催されるようになってきている。最も歴史があり規模も大きいのが、8月下旬に岩手県一関市にて開催される「全国地ビールフェスティバル in 一関」である。今年はおよそ200種類もの地ビールが集結した。他にも7月下旬に福島市内で開催される「ビアフェスふくしま」や、8月末に秋田市内で開催される「クラフトビアフェスティバル in AKITA」10月初旬に開催される「かだるべクラフトビアフェス in ひろさき」でも全国各地の地ビールが味わえる。

東北の地ビールに限って見ても、9月に仙台市内で開催される「仙台オクトーバーフェスト」や6月中旬に秋田市内で開催される「東北地ビールフェスティバル in 秋田」、それに今年

初めて楽天Kobrosスタジアム宮城で開催された「東北地ビール祭」などで東北各地の地ビールを味わうことができる。

常時各地の地ビールが飲めるお店も

このように、各地の地ビールを楽しめるイベントは東北各地で開催されるようになってきているが、それはあくまでイベント期間中のこと、日常的に全国各地の地ビールが飲める機会というのはそう多くない。もちろん、「地ビール」というくらいであるから、その土地に行くと飲むのが本来の筋であるのは確かかもしれないが、いろいろな地域のビールを飲み比べするということもまた楽しいものである。

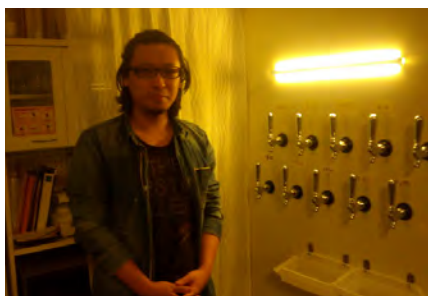
そのような中、最近全国各地の地ビールが常時楽しめるお店が東北各地に次々と出来つつある。これはビール好きにとっては嬉しいことである。「東北地ビール紀行」の中でも一度紹介したことがあるが、仙台市にある「癒・酒・屋わおん」では全国各地の地ビールが常時瓶で20種ほど置いてあるし、秋田市にある「酒場戸隠」では樽生も含めて全国各地の地ビールが楽しめる。山形市にある「ジ・

アーキグラム・ブリテイッシュ・パブ&カフェ」でも常時全国各地の数種類の地ビールが樽生で飲める。こうしたお店であれば、イベント期間中だけでなく、居ながらにして全国の地ビールが楽しめる。

震災からの復興を指す女川町に誕生した新店

これらのお店に加えて最近、宮城県内に相次いで新しいお店が2軒誕生した。どちらもとても特徴のあるお店であるので、今回は特にこれらのお店について紹介したい。

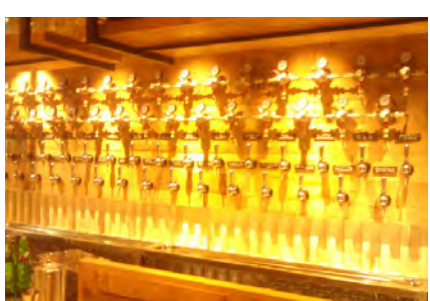
まず、女川町にできた「ガル屋Beer」(牡鹿郡女川町浦宿浜字十二神60-3 TEL090-9534-9979 17:00~23:30) 水曜日(定休)である。女川町は宮城県の沿岸にある、人口約7,000人の町である。東日本大震災の大津波によって900名近い死者・行方不明者を出し、町自体も甚大な被害を受けたが、現在、震災復興まちづくりが進行中である。



ガル屋「Beer」の木村さんと10のタップ

「ガル屋Beer」には、樽生ビールのタップが10個も備えてあり、各地の地ビールなどが常時樽生で飲める。私が訪れた時には静岡のベアドビールが3種、神奈川のサンクトガーレンが4種あったが、何が飲めるかはその時のお楽しみで、基本的に全国各地のいろいろなビールを仕入れているとのことである。評判を聞きつけて、宮城県内のみならず遠くは首都圏からもはるばる訪ねてくる人がいるそうである。フードメニューにも地元女川の美味しい食べ物や名産品を連ねたりしてビールと合わせて楽しめる。

現在のところは「きぼうのかね商店街」という仮設の一角にあるが、今年後半には移転する予定である。3月にJR女川駅が新しく開業し、JR石巻線も全線復旧するが、それに合わせて、女川駅と女川港



クラフトマン Sendaiでは31種類のビールが飲める

を結ぶプロムナードの設置が計画されている。そのプロムナード沿いに商店街ができることで、「ガル屋Beer」もそこに移転するそうである。ゆくゆくはここ女川で、特産品を使った地ビールづくりにもチャレンジしたいとのこと、これからさらに楽しみなお店である。

そうそう、昨年末の12月28日(日)には「ガル屋忘年会」と称して、翌日から年末年始の休みに入ることを、店内の樽を全て空にするべく、お店の樽生ビールが何と時間無制限で全種類なくなるまで飲み放題、かつ料理付で4,500円で楽しめるという、他のどこのお店もマネできないようなイベントも開催した。今後の動向にも目が離せないそうである。

東北最多の31種の樽生が飲めるお店

仙台市内には昨年12月5日、「クラフトマン Sendai」というお店がオープンした。なんと、31種類もの樽生ビールが飲め、かつ東北の食

材を使ったイタリアンも楽しめるというコンセプトのお店である。これまで東北で最も多く樽生ビールが飲めるお店は恐らく、盛岡市内にある地ビール醸造所、ペアレンド直営店である「ビアバー・ペアレンドノ橋」の14種類であったので、「クラフトマン Sendai」はこれを大きく上回るものになったわけである。

このクラフトマン Sendai、東京の五反田にある「クラフト麦酒ビストロクラフトマン」の系列店だが、東京のお店とはコンセプトが異なり、あちらが「和素材を大切にしたビストロ料理とクラフトビール」という「和」な雰囲気を持ったフレンチだったのに対して、こちらは「クラフトビール×イタリアンバル」で、地元の食材を最大限に活かしたいという強い思いから「地産地消」(イート・ローカル)にこだわったイタリアンをクラフトビールと共に楽しむお店というコンセプトである。

早速足を運んでみたが、この東北各地の野菜や魚介類、肉類を使ったイタリアン、確かにそれを頼んでも美味しく、ビールが進む。そして、樽生のビールもどれも美味しいのでまた料理も進む、という好循環(?)である。

タップ数の「31」であるが、「サーティーワンアイスクリーム」の「31日間(1

ヶ月)毎日違う味のアイスクリームが楽しめる」というコンセプトと同様、毎日違う味のビールが楽しめるという意味かと思ってしまうが、特にそのような意図ではないとのことであった(笑)。ともあれ、31のタップが壁にズラリと並んだ図は壮観である。

仙台市内の既存のビアバーなどの競合がちょっと心配になったが、店内にあるメニューの裏には「仙台ビールマップ」が掲載されていて、仙台市内で同様にビールにこだわっているお店が解説付きで紹介されていた他、オープンに先立って行われたメディアアフレクションでもそうしたお店の関係者を招いて懇親を深めたとのこと、一緒に仙台をビールで盛り上げていこうという意図が感じられ、一安心である。

盛岡にも新店が誕生

この他、盛岡市内にも昨年11月17日に「クラフトビア・ホッパーズ」という、地ビールが樽生で常時10種類飲め、館ヶ森アーク牧場のソーセージなど岩手県産の



盛岡の「クラフトビア・ホッパーズ」は説明が親切

食材を使った料理も楽しめるお店がオープンした。マニアックな店ではなく、気軽にビールを飲み通えるお店を目指しているとのこと、店内の壁やメニュー表にビールの種類についての説明が分かりやすく書いてあると共に、その日に飲める樽生ビールがそのどれに当たるのかも明記されている。ビールに詳しくない人でも自分の好みの味のビールを探して親切である。

このように、東北各地にいろいろな地ビールが楽しめるお店が着実に増加している。これまで、「全国の地酒〇〇種揃ってます」、「全国各地の焼酎が飲めます」というお店は無数にあっても、「全国の地ビール〇〇種揃ってます」というお店はほとんどなかった。料理や地酒、焼酎などにはこだわっていても、ビールは大手の社のもののみというお店がほとんどだった。このように、大いに歓迎したい。これからのようなお店が登場してくるか楽しみである。

連載
むかしばなし



第二十話
青葉山物語

夕暮れの中に客車の周囲を見渡すと、おそらく人影が消えた周辺の民家からくすねたのであろう、土鍋が多くの火にくべられていて、何とか掻き集めた山菜が沸騰した湯の中で香っており、川魚が地面に串刺しで焼かれているところもあった。

後方の客車の昇降口で、機関士と車掌が乗客と何やら揉めているのを見た。祝魚は近づき、声をかける。「何した。」

「娼妓さんがいる。このお客さん方が、その・今夜遊びたいというんだが、客女のもとへ歩いた。まだ二十歳そこそで洒落た色合いの着物で身を飾っている。」



奥羽現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出演し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当

車でもやられても困るし、夜あまり遠くへ行かれるのも。」

「遊廓の・人が乗っているのか。」

「申し出た男は四人、今朝玉手崎まで向かった一行の中にいた者たちだった。もう一日、昭和に戻るまで辛抱できねえのか。」

「戻れる保障があるのか、餓鬼が生意気な口を叩く。女は商売する気ではないんだ。」

「祝魚は焼き火のひとつに、独り他の乗客から離れて当たっている、娼妓だという女のもとへ歩いた。まだ二十歳そこそで洒落た色合いの着物で身を飾っている。」

「あんたも、遊びたいの。」

「やめれ。何だ、あの野郎方。断ればいいな。」

「別に・明日をも知れぬ命だろ。女を抱くぐらいしておきたいんだらうさ・・座つたらどう。」

「祝魚はその通りにしない。」

「小田原・遊廓か。」

所で生きる余地を与えられた。そこなら、どんなに苦しくても生きていける・・・そこが、七百年も時間を遡った世界になったとしてもね。」

祝魚はもちろん、遊女の一般というものを知らない。だがそれにしても、奇妙な語り口を持つ女だ。

「昭和の時代に、戻れなくてもいいっていうのか。」

「あんた、戻りたいの。マタギなんですよ。どの時代だって、山や川がマトモなら平気なんじゃないの。」

「七百年後の、ここにある町場に用がある。まさにお前が行くつもりだった小田原にな。さらわれた幼馴染を取り戻さなならねえ。」

「廊に売られた友達を救おうって事？馬鹿も休み休み言つとくれ！仙臺の娼妓も三十軒はある・・その娘も殺される訳じゃあない。あんたが半殺しにあうだけだよ。」

「じゃいつ！大天狗！」

武者の一人が叫び、隣の女武者に頭をはたかれる。若の時代の、大向こうの掛け声という奴に当たるのか。

「しかし女王もさるもの、呪いをかけて綾糟と娘が決して会えぬようにしてしまつたのです。」

「どうやって、ですか。」

「蜂の娘どもは皆同じ顔。もとは同じ一人を複製したものののです。十人いれば十人の身体に一日につき一人の人格しか現れぬようにしたと言います。つまり、綾糟が匿っている一体も、元の人格は封じ込められ別の人格に入れ替わっている。自分を誅殺せしめんとする、刺客となつてしま

う訳です。」

「なんて・・ひどい」

輪になった武者達も、一様に同意を表している。「ところがところが！娘は既に綾糟の子を身に宿していたのです。なのに、その子の存在まで封じられてしまします。その不憫なる子を、何とかこの世に出してやりたい」というのが、大天狗綾糟の、あまりにも長年の悲願でした。」

「つまり、その子が・・」

「御意。藤原秀衡の子として世に降りた、泉三郎忠衡の眼を瞬かせ、驚きに瞳を輝かせる少女を横目に、高衡は芋の汁を飲み干した。」

「某ら兄弟には、各々自由に物語がある。だから互いに秘密はなく、よく知っておくようにしているのです。」

巨大な蛇の頭が霧の中から近づき、その姿が明確になつてくる。金色の両目が顔の前にあり、眉や髭のように銀色の毛が上下に長く流れている。蛇というより、まさに龍、そのものだ。「本当にいたのか・龍つてもいいよ」

今純三が呆然と呟く。美術屋の本能なのか、こんな状況にもかかわらず絵筆が手に握られている。芭蕉が腰に着けた瓢箪へ手を伸ばした。もう片方の手で、錫杖を振り、龍の気を引く。怪物の顔が更に近づくと、経を唱えながら瓢箪を前へかざしていくのだった。

「もし、龍どの、龍どの・お騒がせして申し訳ないのですが・」

突然、宮澤賢治が帽子を脱いで龍の前に一歩出て、一礼した。芭蕉の動作も一瞬、硬直する。

「大天狗様にお目通り願いたく、参上しました。是非とも農業面でのご指導を賜りたいと存じます。」

澄んだ高い声が、崖の壁面から龍の胴体まで反響する。一行は呆気にとられた。龍の虹彩は暗がりの猫のそれのように黒く開き、訝しげにこの不思議な坊主頭を睨む様はある意味で人間的でさえあった。

芭蕉の腰の瓢箪が、俄かに振動を始めた。それを察知したか、龍の眼がギロリとそちらを向く。周囲の霧を巨大な鼻穴に吸い込み、広く裂けた口の左右から吹き出した。

瓢箪に亀裂が入るメリ、という音がして、次の瞬間には破片が弾け飛んだ。ぼとどと、芭蕉の足元に落ちたのは、思いがけず小さな長い四つ足を持つ馬のような生き物である。

次の瞬間、龍は大きく首を湾曲させてその顔を霧の中へ引つ込めた。白い霞の奥で金色の眼の光のみが輝き、そこから怖ろしい咆哮が鳴り響いた。

瓢箪から落ちた生き物もまた、長い余韻を残す、狼のような遠吠えで対抗する。それは顔は犬のようだが、馬のような脚を持ち、全身に長く紅い巻き毛と、背中から鳥の翼を生やした奇怪な動物だった。みるみるその身体は大きさを増し、あつという間に眼の高さが芭蕉のそれと同じになる。

「麒麟、か・？」

「麒麟、か・？」

「麒麟、か・？」

何か眩いものが光の尾を引いて天空へ垂直に飛び上がつていった。

眼を凝らすと、それはやはりあの「麒麟」である事に違いなかった。だが、発する光の量が違うし、翼が大きく伸びて飛翔力にも変化が起きたようにも見える。

その背中に、狩衣を纏った少女が乗っている事に、眼鏡の度が合わなくなつてきている今純三さえもやがて気づいた。

「麒麟」は中空で旋回し、龍の頭の周囲を巡るように飛んだ。龍が食いつこうとすると再び急上昇し、龍はそれを追って高く高くその首を天に向けて伸ばし始めた。必然的に、壁のように横たわっていた龍の胴体は空へ浮かび上がり、目の前は遮るものがない、浅い窪みだけが残る白い砂地になつた。芭蕉が叫ぶ。

「今です！渡りましょう。」

向こう岸では、小柄な壇老人が腕を振って皆を招いている。賢治、喜善も眼を見合わせ、走り出した。空は霧が急速に晴れていき、天高く昇って行く白い光と、それを追う長い長い蛇のような黒い影が、誰も見た事のない幻想の光景を現出させていた。

シリーズ 遠野の自然 「遠野の冬」 遠野 1000 景より

冬至は一年のはじまり

今回の話は、遠野の冬の寒さではなく、冬至の話から開始しよう。

冬至は一年で最も昼が短いことは誰でも知っている。しかし、古代には、冬至を一年の始まりとしていたこ



冬至の日没

とはあまり知られていない。太陽信仰が盛んだった古代において、冬至は太陽が最も弱る日であるとともに、ここから夏至に向けて徐々に活発化していく起点となる一日であり、とても喜ばしい日であった。それとともに、寒く厳しく、貯蔵食料が乏しい窮乏の季節への決別の日でもあったであろう。

そのため、日本だけでなく、世界的にこの日に祭りが行われていた。クリスマスもその起源を辿れば、冬至にまつわる土着の祭りが変容した祭りであると言われている。

日本の古代の冬至の祭りがどんなものであったか、今は定かではないが、この冬至の日没を見て想像してみた。

凍てつく季節

それにしてもどの写真からも凍てつく寒さがピンピンと伝わってくる。

ヤマユリの枯れた茎が見事に直角に折れている様は、遠野の吹雪の厳しさを思わせずには置かない。

霜で凍りついた落ち葉は、こちらの身体まで凍りつかせる。夕日を浴びた六角牛山を背景にした小川は今にも凍



夕日に映える六角牛山



冬のヤマユリ

りつきそうである。夜にはさらに冷え込んで、氷が張るのである。

メガネ橋の上を走る列車の白い車体が、橋下の雪と一体化しているが、車体を横切る赤いラインが、白と黒の墨絵の世界にアクセントをつけている。

干し柿と遠野駅

こうしたほぼ白と黒の寒々しい景色のなかに干し柿を見つけるとほっとする。

厳しき冬のなかに人の営みが見えて、何だかほっこりする。

ほっこりついでに、朝日を浴びた遠野駅は、東の間の快晴の青空をバックにしてたらずんでいる。周囲の樹木も冬枯れてはいるが、とてもなつかしい。

いつも訪問するのは秋で数ヶ月前の祭りの喧騒を思い出す。池の周囲にいる赤いカッパも雪に埋もれて見えないが、元気だろうか。



干し柿すだれ



霜の朝



冬晴れの遠野駅



メガネ橋

笑い仏さん、いよいよ関東入り

16カ寺目は神奈川県二宮町 浄土宗浄源寺 森丹山住職に被災地石巻との交流を聞く

まずは尺八で笑い仏さんをお迎え
石巻での被災者との交流での尺八演奏
大震災で人生が大変化した人々のお話し
檀家に被災地の状況を伝える

MONKフォーラム代表 長谷川稔氏
平原憲道氏 寄稿

笑い仏さん

福島への行脚

第十七回

明けましておめでとうございませう。2012年6月に鳥取県倉吉市を出発した「笑い仏」さんは、昨年末から16カ寺目となる神奈川県二宮町の浄源寺に逗留しています。そして今年8月頃には、最終目的地である福島県富岡町の浄林寺に到着する予定です。MONKフォーラム一同、最後の力を振り絞り仏さんと伴走いたしますので、引き続き宜しくお願いいたします。

森丹山住職は、60の齢を感じさせない快活なお方です。笑い仏が到着すると、丁寧にお経を上げて下さり、「ありがたい」と当方が思いつつ目を開けると、取り出されたのは何と尺八。ときに野太く、ときにか細い絶妙の音色が境内に響き渡ります。初めての音色がこれほど間近で耳にしたことがなかったため、驚きました。「あれから、だいぶ経ちましたね。」

笑い仏を受け入れてくれた森住職が、宮城県石巻市を訪れたときの話をしてくれました。東日本大震災が起ったとき、「何かできないか？」とずっと考えていたそうです。そして、12年2月、知人のつてを頼り石巻市の商店街に行き当たりました。

復興ままならない石巻の人を勇気づけようと、中央アイトピア通りにある呉服店「かめ七」でコンサートが開かれました。出演者は有名無名さまざま。あの加藤登紀子さんもライブをされたと言います。寒い季節でしたが、会場は満員で熱気はムンムン。その中で、森住職も得意の尺八を披露したそうです。ジャズギターと共演するなど、1時間ほどの熱演だったとのこと。「とにかく、被災地のために何か手伝いたかった。それがこの演奏。盛り上がり、よかったのですが、私の心に残ったのは、後に行われた地元の方との打ち上げの方。震災を経験した方の話は心に迫ってきました。」

森住職の話に熱がこもります。「違う場所にいたため1人だけ助かった方がいたり、校長先生を辞めて、そのまま被災地に住みつかれた方がいたり。震災により、人生が変わった方が多くおられたのですよ。」

石巻での滞在は1泊2日と短いものでしたが、多数の児童や職員が犠牲となった大川小学校を訪れるなど色々と考えさせられる旅になったとのこと。お寺に戻った住職は、この貴重な経験を伝え始めます。「石巻はここからは遠いですが、何らかのつながりを持ち続けなければ。」

檀家さんに被災地の現状を伝えるとともに、石巻の方が作成したTシャツや絵本を販売する活動から始めました。そんな住職でしたので、そんなこの笑い仏の活動にも、理解を示してくれたという訳です。



森丹山住職



神奈川県二宮町の浄源寺

森住職は、被災地への活動の他にもさまざまな活動をされています。静岡県御殿場市にある神山復生病院に月に1度訪問し、石巻のときと同じく、尺八を演奏しているのです。「仏教版のホスピスですよ。最初に行ったときは、『なんでお坊さんが病院に来るの?』という白い目で見られたけど、今は楽しみにしてくる人もいますよ。」

笑い仏さん、今でも「尺八とどういう形でつながれるのか?」ということを考えておられます。その真摯な姿に、我々は背中を押されているような気がしました。

これを書いている私は、いま名古屋に住んでいます。最近では、テレビでも震災が話題に上ることも少なくなりました。でも、さまざま



石巻の方が作成したTシャツ



笑い仏さん

オリピックなぞちまえ 〜そして漂泊の思いに駆られ、旅日記

佐藤紀彦

年末にテレビを視ていた。

二〇一〇年東京オリンピックに関するバラエティ番組であった。五輪開催は、日本国民の健康を増進する契機となり、仮に数兆円規模で社会保障費が抑制された場合、その浮いた分の国家予算は被災地の復興に回されるかもしれないと語る国営放送局の解説委員がいた。宮城県では、プレハブ式の応急仮設住宅で4回目の冬を迎える入居者が、いまだ三万七千人も残されている(数値は宮城県震災援護室公表資料より)。浮かれた話題の中で、被災地の復興

佐藤紀彦氏紹介

仙台市在住。不動産鑑定士。出身は東北の田園地帯・浦谷町。趣味は家内との温泉巡り。非寛容・排他主義がはびこる時勢を憂う。

Facebook
https://www.facebook.com/norihiko.sato.509



に言及するとは、若干の後ろめたさを感じ、それを糊塗する意図があったのかも知れないが、能天気な理屈に呆れるとともに、自分の胸の中に、鬱屈とした憤りが静かに込み上げてきた。

同じく年末に、出張先のコンビニで、時間潰しにと漫画の単行本を購入した。『美味しんぼ(三巻)』『福島の真実』編・下巻。この本は、社会的にはどう受け止められているのだろうか? 危機を煽るため、原発事故とは因果関係の乏しい「鼻血問題」を殊更に取り上げ、福島県の風評被害を助長したとか、政権の閣僚が相次いで「遺憾の意」を表明したデマ拡散の偏向図書とか、マイナスイメージが著しいことは間違いない。しかし、実際に読んでみての感想は、原作者が丹念に現地取材した結果が反映されており、福島の実情を知り、自らの問題として受け止めるためには、良い本なのではないかと思つた。確かに、原作者である雁屋哲が最後に行き着いた「国と東電は、福島の人たちを安全な場所に移す義務がある」という結論は、な

おも福島に生活の拠点を置き、特に、子育てを続けることを決意したものにとつて、あまりに重く、そして哀しい。けれども、残酷なのは、この『美味しんぼ』の作品そのものや、原作者の思想性・人間性なのではない。世界でも類例のない原発事故が発生した福島の地の実情こそが、安易な現実逃避を許さないほど、人を残酷な境遇へと追い詰めているのだと思う。

福島第一原発は、阿武隈高地から太平洋に流れ込む河川跡に建設されたため、地下に水脈が形成され、一日当たり数百t単位の地下水が建屋内に流れ込み、汚染水を増やし続けている。汚染水から大半の放射性物質を除去する「多核種除去設備(ALPS)」は昨年秋に2基追加され、現在、試運転ながら3基体制で汚染水を処理中であるが、フィルター破損等が相次ぎ、本格稼働には至っていないため、東電が目標として掲げる平成26年度内の汚染水処理完了など、誰の目からも絶望的である。初期段階からしてこの有様なのであるから、技術的見地よ

り工事が難航している凍土遮水壁問題や、ALPSでは処理できないトリチウム残留水問題は言うに及ばず、肝心の使用済核燃料回収問題、及び、未だ行方が分からない熔融燃料(デブリ)の取り出し問題等は、解決に辿りつくまで相当な困難が予測される。

『中村屋のボース』で知られる北海道大学准教授中島岳志は、現政権のことを「ぼろぼろになった車に無理やりエンジンを吹かせて走らせようとしているだけ」のモルヒネ内閣と呼んでいる。フクシマ問題が「アングラーコントロール」であるとは名ばかり。廃炉に至るまで、現段階では解決不能の問題が山積である。また、フクシマ問題とは、まさにそこで暮らす人間の問題

であるが、甲状腺がんの子供が明らかに増加傾向を示しているにもかかわらず、地域住民を対象とした医学的調査は見送られ、健康被害を訴える書物や声は、排外主義的な攻撃の対象となり、社会的に抹殺されていく。アベノミクスという幻覚を伴うモルヒネはもういらぬ。福島の逃れられない現実を我が身のこととして受け止めるのであれば、東京オリンピックなど、心の底から、やめちまえと思う。

今回の年末年始、私は家内と北東北の温泉地を巡ってきた。目的地は、秋田県鹿角市の後生掛温泉と、青森県深浦町のみちのく温泉である。山間部では豪雪に見舞われ、能代から白神山

地を東に眺めつつ北上した日本海側では、寒風吹き荒ぶ中での行程となったが、やむにやまれぬ漂泊の思いを胸にするものにとつて、東北の大地は懐が深く、そしてやさしい。風景は大きく様変わりしているものの、心象世界は、つげ義春『貧困旅行記』となり、東の間の厭世的な気分を身を任せ、旅情にひたる。

秋田八幡平、焼山麓の谷間に湯煙をあげる後生掛温泉は、約300年の歴史を持つ一軒宿の旅館である。後生掛の名称は、愛する男に後生を掛けて、地獄谷に身を投げた巡礼の女(妾・おなめ)と、それに続いた許嫁の女(妻・もとも)の伝説に由来し、哀愁を色濃く帯びているが、宿自体は近代的で、規模に関しても旅館部100人・湯治部200名収容と比較的大きい。この旅館の名物は、何と云っても「温泉保養館」と呼ばれる多様性に富んだ大浴場であり、単純硫黄泉の大きな浴槽を中心に、「箱蒸し風呂」「火山風呂」「泥湯」「打たせ湯」が配され、温泉水が噴き出すスチームサウナや、雪山を眺めながら入る露天風呂も含め、手作り感溢れるスパ・ワンダーランドとなっている。

私たちが夫婦が到着した日は、間断なく雪が降り積もり、標高1,000m前後に位置する後生掛温泉一帯は、白銀の世界にすっぽりと包まれたようであったが、雪山に孤立する宿一つが小さな共同体のように感じられ、温かな気分

で、時間の経過を楽しむことができた。また一般旅行者以外に、長期滞在の湯治客も多く、開放的な大浴場で砕けた感じの会話(方言)が飛び交い、活気があることも自分好みである。一般的に、硫黄泉はその香りだけで、気分がほぐれてくるものであるが、後生掛温泉の場合は、やや熱めのお湯でも長時間浸つていられるため、体の芯・臓腑まで温まり、入浴後も湯冷めし難いのではないかと感じる。いつの時代か、宿の人が考えたのであろう「馬で来て/下駄で帰る/後生掛け」とのキャッチコピー(宣伝文句)もまた楽しい。

次に訪れた、青森県深浦町のみちのく温泉は、同じ町内に存する「黄金崎不老ふ死温泉」と比べれば、知名度は低いと言わざるを得ない。不老不死温泉が、日本海の荒波にその縁まで洗われるかのような露天風呂を売りにして、各種温泉紹介本にも、習志野・和泉等のナンバーを付けた車が宿前に並

んでおり、秘かな人気スポットであることが窺われた。実際に入浴した感想としては、食塩泉でもあるせいにか、多少のベタ付き感が無い訳ではないが、私も家内も、内風呂から上がった後に、暫く、噴き出す汗が止まらなかつた。泉質の珍しさは特筆に値し、近場であれば、私個人としては、何度でも入り来たいと思つたほどである。みちのく温泉は、海岸近くの段丘上に位置するため、真冬ではなく、麗らかな季節に訪れれば、JR五能線脇の露天風呂から、優美な景色を楽しむことができたのかもしれない。しかし、冬の日本海もまた、岩にあたって砕け散る波濤の凄まじさが、見るものに、自然の脅威を感じさせ、更に、力強さを吹き込むのである。東北の現状は厳しいが、不屈の魂を育むのも、この東北の荒ぶる自然なのではないだろうか。そのような思いを胸に留め、私たちは帰路へとつ



冬の日本海



後生掛温泉



みちのく温泉露天風呂

高いのに対し、みちのく温泉は、ローカル旅館というイメージが強く、実際に宿泊した感想としても、失礼ながら、全ての点において垢抜けない印象は否めない。しかしながら、みちのく温泉の優位性は何と云っても泉質の特殊性・稀少性にある。最近、スーパー銭湯でも人工炭酸泉を扱う施設が散見されるようになっていくが、みちのく温泉は、全国でも数少ない自然由来の二酸化炭素泉となり、しかも、その遊離二酸化炭素含有量は、四〇〇mg/Lと全国一であることを誇示している。炭酸泉は、多少お湯がぬるくても、体内の血液中に溶け出した二酸化炭素により、毛細血管が拡張され、血流が促進されるため、じんわりと汗をかき、しかも保温効果が高いという特性が認められる。このため、人工炭酸泉の普及とともに、愛好者が増えているが、私たちが宿泊した日にも、習志野・和泉等のナンバーを付けた車が宿前に並

と包まれたようであったが、雪山に孤立する宿一つが小さな共同体のように感じられ、温かな気分

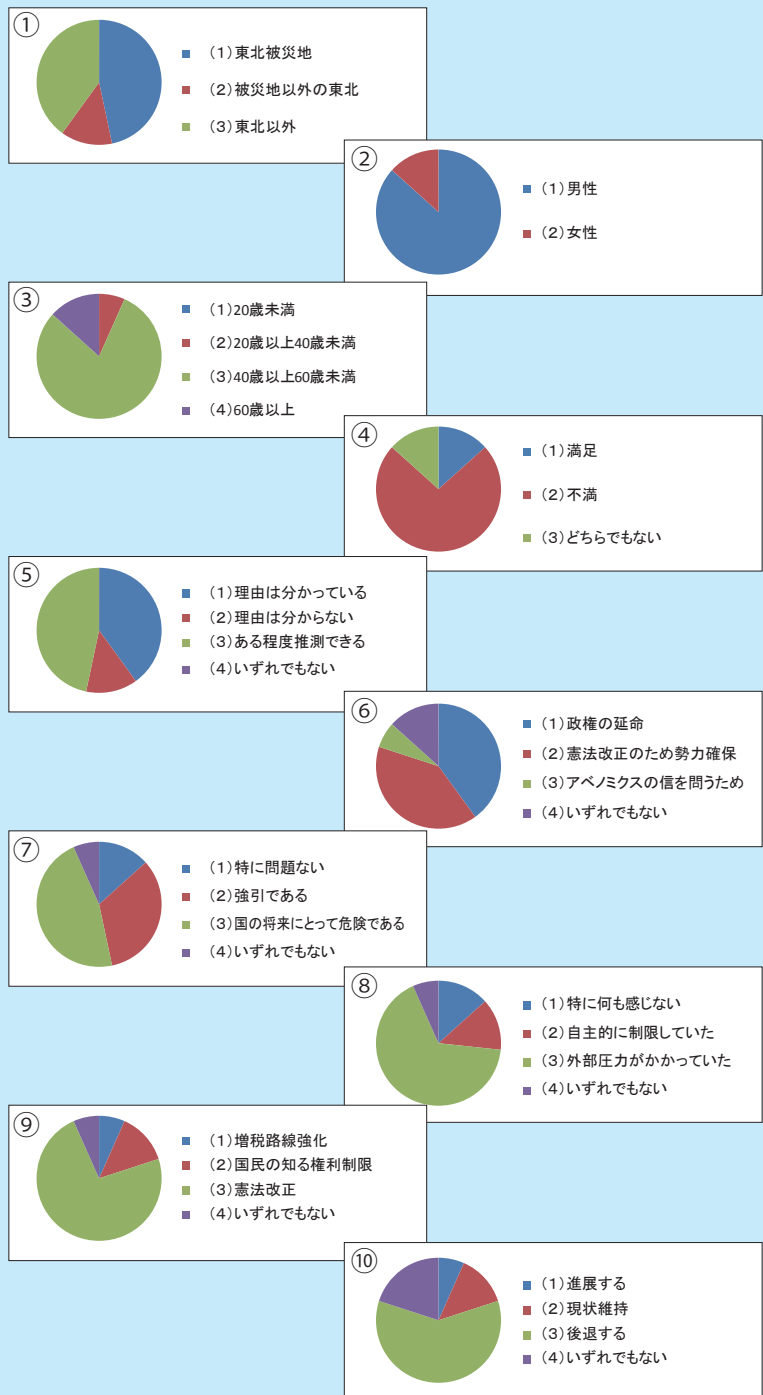
で、時間の経過を楽しむことができた。また一般旅行者以外に、長期滞在の湯治客も多く、開放的な大浴場で砕けた感じの会話(方言)が飛び交い、活気があることも自分好みである。一般的に、硫黄泉はその香りだけで、気分がほぐれてくるものであるが、後生掛温泉の場合は、やや熱めのお湯でも長時間浸つていられるため、体の芯・臓腑まで温まり、入浴後も湯冷めし難いのではないかと感じる。いつの時代か、宿の人が考えたのであろう「馬で来て/下駄で帰る/後生掛け」とのキャッチコピー(宣伝文句)もまた楽しい。

次に訪れた、青森県深浦町のみちのく温泉は、同じ町内に存する「黄金崎不老ふ死温泉」と比べれば、知名度は低いと言わざるを得ない。不老不死温泉が、日本海の荒波にその縁まで洗われるかのような露天風呂を売りにして、各種温泉紹介本にも、習志野・和泉等のナンバーを付けた車が宿前に並んでおり、秘かな人気スポットであることが窺われた。実際に入浴した感想としては、食塩泉でもあるせいにか、多少のベタ付き感が無い訳ではないが、私も家内も、内風呂から上がった後に、暫く、噴き出す汗が止まらなかつた。泉質の珍しさは特筆に値し、近場であれば、私個人としては、何度でも入り来たいと思つたほどである。みちのく温泉は、海岸近くの段丘上に位置するため、真冬ではなく、麗らかな季節に訪れれば、JR五能線脇の露天風呂から、優美な景色を楽しむことができたのかもしれない。しかし、冬の日本海もまた、岩にあたって砕け散る波濤の凄まじさが、見るものに、自然の脅威を感じさせ、更に、力強さを吹き込むのである。東北の現状は厳しいが、不屈の魂を育むのも、この東北の荒ぶる自然なのではないだろうか。そのような思いを胸に留め、私たちは帰路へとつ

第31号 ネットアンケート集計結果

【衆議院選挙結果を評価する】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	7
	(2) 被災地以外の東北	2
	(3) 東北以外	6
②	性別	
	(1) 男性	13
	(2) 女性	2
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	1
	(3) 40歳以上60歳未満	12
	(4) 60歳以上	2
④	選挙結果への満足度	
	(1) 満足	2
	(2) 不満	11
	(3) どちらでもない	2
⑤	選挙実施理由について	
	(1) 理由は分かっている	6
	(2) 理由は分からない	2
	(3) ある程度推測できる	7
	(4) いずれでもない	0
⑥	選挙実施の本当の理由は?	
	(1) 政権の延命	6
	(2) 憲法改正のため勢力確保	6
	(3) アベノミクスの信を問うため	1
	(4) いずれでもない	2
⑦	安倍政権の政権運営手法について	
	(1) 特に問題ない	2
	(2) 強引である	5
	(3) 国の将来にとって危険である	7
	(4) いずれでもない	1
⑧	マスメディアの選挙報道について	
	(1) 特に何も感じない	2
	(2) 自主的に制限していた	2
	(3) 外部圧力がかかっていた	10
	(4) いずれでもない	1
⑨	今後出現が予想される政策	
	(1) 増税路線強化	1
	(2) 国民の知る権利制限	2
	(3) 憲法改正	11
	(4) いずれでもない	1
⑩	東北復興と選挙結果について	
	(1) 進展する	1
	(2) 現状維持	2
	(3) 後退する	9
	(4) いずれでもない	3



今回は【衆議院選挙結果を評価する】でした。師走の衆議院選挙ということで大分物議を醸した選挙でした。野党の準備不足のためか、自民党の圧勝となりました。その結果についてお聞きしました。回答者数は十五名。

「選挙結果への満足度」は「不満」が約73%、「満足」は約13%。「選挙実施理由について」、「ある程度推測できる」と「理由は分かっている」を足すと約86.7%とほぼ理由は分かっているとの回答でした。「選挙実施の本当の理由は?」は「政権の延命」と「憲法改正のための勢力確保」が同数で40%ずつでした。「安倍政権の政権運営手法について」は「国の将来にとって危険である」が約46.7%、「強引である」が約33.3%、「特に問題ない」は約13.3%で少数派でした。「マスメディアの選挙報道について」は「外部圧力がかかっていた」が約66.7%で他を圧倒していました。「今後出現が予想される政策」は「憲法改正」が圧倒的に約73%。憲法改正を覚悟しているという結果でした。「東北復興と選挙結果について」は「後退する」は60%、「現状維持」は約13%、「進展する」が約6.7%と厳しい結果でした。

今後の政治はますます方向性が見出しにくいことを暗示するアンケート結果となりました。

編集後記

新年早々、世界では物騒な事件が起きています。イスラム教をめぐる、風刺表現の自由と侮辱されたと思う側からの報復テロである。いずれが正しいかの議論はさておき、新聞の売上とセンサーショナルな話題づくりを考えてみよう。

新聞社は販売部数が経営の中心課題で、販売が振るわなければ新聞社は倒産リスクを抱え込む。何とかして部数を伸ばしたい。そこで話題づくりに必死になり、特ダネはもちろん、すっぱ抜きを追求する。

しかし、特定組織や個人への誹謗中傷、でっち上げ、プライバシー暴露と来てはそもそも新聞の存立基盤そのものを否定することにつながる。新聞にはこの点の検証が必要ではないか。

要するに、表現の自由というところで何を言っても良いわけではないことを言いたい。この点が今の喧騒のなかで看過されていることを指摘しておく。

話を転じて、新聞社を潰すには不買運動を仕掛けられない。日本が先の戦争に突入する直前に起きた不買運動が、戦争記事礼賛につながったことを思い起こすべきである。最初、新聞各社は不戦を掲げたが、それが気に入らない一部の扇動者に不買運動を仕掛けられたのだ。言論問題は深い。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

・プロジェクト募集要領

- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由(プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ 〆切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

・連絡先/企画提出先

(郵送) 〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1
ホームタウン宮前2-2
電子タブloid新聞【東北復興】宛
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

・ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)

・たくさんのご提案をお待ちしています